

間いろんな人に支えられてきたんだということを再認識させられた。みんなに感謝したい」という。

神戸製鋼所時代は一貫して溶接事業畑を歩

んだ。89年から5年間、タイ子会社の増設移転と新会社設立に携わった。「経理、財務以外のことも経験し、成長させてもらった」と振り返る。その後、中国、東南アジアへと事業拡大を推進。「国が違えば考え方も違う。しかし、真摯に向き合えば心は通じる」ことを

な気持ち大切に



07年芦ノ湖にて(本人中央、右隣りがインドネシアのパートナー企業の社長)

たかむら みつお

高村 実朗氏

(大阪チタニウムテクノロジーズ専務)

学んだ。今でも海外に友人は多い。

OTCでは営業担当。「お客様第一主義に徹する。事業環境は厳しいが、経験を生かし業績向上に貢献したい」と決意も新たに。

(昭和30年5月24日生)



米ミドレックス社の仲間と、懇談(右端、2005年)

眞部

(神戸製鋼)

の誠実さから国内外に知己は多い。闘病中には多数の励ましメールが海外の友人から届いた。

4時間以内でフルマラソンを走破する「サブ4」を40歳代で達成した。今はドクターストップのマラソンに代わり、スキューバー・ダイビングを楽しむ。

(昭和30年9月16日生)

2015年 年男



4

写真は高校1年の時、軟式テニス部の仲間と。「1年間で休みは正月だけ。朝練と夜も充実した照明設備のもとで遅くまで練習。6階建て校舎の階段ダッシュを100本…。同期部員は3人だけになった」と話す。「休日の硬式テニス、そして近場のスーパー銭湯へ家族で出かけることが楽しみ。スーパー銭湯のうどん屋の料理が結構いける」と笑顔。この2つが神戸社長の活力源といえそうだ。

「テニスとスーパー銭湯が活力源」



高校1年の時、軟式テニス部の仲間と(左端)

かんべ むつひと

神戸 睦史氏

(ハウゼコ社長)

「新設住宅の減少などで需要環境は厳しいが、新製品の開発やきめ細かな需要家サービスに力を入れている」。業績は堅調で、今期売上高は過去最高だった前期並みの25億円を予想している。

(昭和42年8月23日生)

ハウゼコは大手換気部材メーカー。

昨年6月、東京ゴルフ倶楽部のグランドシニア大会の決勝にて



おくざわ

奥澤

(奥澤産業)

に2度。直近では、理事を務める龍ヶ崎カントリー倶楽部で昨秋に成し遂げた。還暦で始めたピアノも、忙しさを理由に休みがちなだけに「再チャレンジだね」と意欲的だ。

(昭和18年7月23日生)